

事務事業評価表 平成24年度

政策 安心を感じる保健・医療・福祉の充実
 施策 健康づくりの推進
 基本事業 母子保健の充実

事業名 **予防接種経費(法定 任意を含む)**

[0121]

部名	健康福祉部	事業開始年度	昭和26年度	実施計画事業認定	非対象
課名	保健センター	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>定期接種対象の乳幼児・学童・生徒及び保護者。 定期外の年齢で接種を希望する市民 昭和50年～52年生れの市民でポリオ接種希望者 海外留学等でポリオの追加接種を要する者 医学的理由でBCG接種を生後6か月～1歳未満で希望する者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>予防接種の必要性を理解し、ワクチンを接種することで感染、発病を防ぐとともに重症化から免れる。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>集団接種及び個別接種で実施 (1)集団接種(ポリオ) 定期予防接種分 任意接種分(昭和50年から52年生まれの抗体獲得率の低い追加接種対象者)は保健センターで実施 (2)個別接種(BCG、三種混合、麻しん風疹混合ワクチン、二種混合)は市内医療機関に委託。 なお、1歳6か月までのポリオ未接種者、麻しん、風しん混合ワクチン2,3,4期対象者には個別通知にて接種勧奨。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	18歳以下で、定期予防接種の対象年齢になる市民	人	10,715	10,612	9,979	10,028
対象指標2	昭和50年～52年生まれの市民	人	4,319	4,331	4,420	4,420
活動指標1	ポリオ個別通知数	人	1,662	1,631	1,646	1,160
活動指標2	麻しん、風しん2期個別通知数	人	1,009	918	890	941
成果指標1	3歳児健診受診児のポリオ接種率	%	94.5	94.4	91.8	95
成果指標2	1歳6か月児健診受診児の麻しん予防接種率	%	93.7	94.6	93.7	95
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	73,643	73,673	71,246	77,186
正職員人件費(B)		千円	7,053	6,851	6,822	6,879
総事業費(A)+ (B)		千円	80,696	80,524	78,068	84,065

費用内訳	
23年度	報酬 3,746千円、報償費 13千円、旅費 3千円、需用費 32,400千円、役務費 505千円、委託料 33,887千円、負担金・補助及び交付金 692千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		昭和23年の予防接種法、昭和26年の結核予防法の制定により法定予防接種事業が開始され、その後累次の改正を経て現行の制度となった。近年では平成18年麻しん、風しん接種に係る改正が行われ、麻しん風しん混合ワクチンを用いることで被接種者と財政的負担の軽減が図られ、加えて長期にわたる免疫付与による疾病予防のため2回接種が導入された。また麻しん蔓延により麻しん排除計画が策定され、平成20年度から5年間の時限措置で麻しん風疹混合ワクチン第3期、第4期が対象者に追加された。 江別市では、集団接種から個別接種へと体制整備し漸次移行。平成14年度から乳幼児のBCG接種を個別接種とし、市内医療機関へ委託。集団接種はポリオ生ワクチンのみとなった。
--------	--	---

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

予防接種法により定められている義務的事業である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

予防接種で感染症の発症を防止又は軽症化することは、保護者及び児の心身の健康の保持増進が図られると共に、重症化による医療費の増加及び後遺症による介護負担を免れ、上位の基本事業への貢献度は大きい。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

母子事業を通して、接種勧奨を積極的に行っている。また、委託医療機関においても接種計画を保護者に指導しており接種率は年々上昇又は維持し続けている。平成18年6月の法改正で制度化された麻しん風しん2期の接種率は全国的に低率といわれているが江別市では平成23年度95.1%と年々受診率は向上しており高い接種率を維持している。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

麻しんは合併症率約30%、平均入院率40%、死亡率0.1~0.2%の小児に重篤な疾患であり厚生労働省の審議委員会では1歳代での接種率向上を推進している。平成18年度から麻しん風しん混合ワクチン(MR)になり1度の接種で2種類の病気に対する免疫獲得が実現した。今後も継続して接種の啓蒙を強化し、特に1歳代における90%以上の接種率維持をはかることが事業の成果と考える。平成24年9月より導入が予定されている不活化ポリオワクチンが開始になると、低下していた受診率の向上が見込まれ、成果向上が期待できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

- ある
- ない

理由・
根拠は？

本事業は、早期に接種を済ますよう啓蒙強化することで接種者増を図ることが成果向上になる。集団接種においては正確で安全な接種と効率的な業務配分、対象者数に応じた事業量により予算の見直しを行ってきた。また、国の指針どおり個別通知によるMRワクチン2,3,4期の接種勧奨も実施しており、これ以上の削減は法改正等の変化がない限り困難。また、接種料金について受益者負担を求めることは接種率低下を招き、事業効果を低下させると考える。